



秋の夜空に打ち上げられた花火

秋の夜空に2,000発の花火

■榛南花火大会

9月21日に、大江区の避難地であるいのち山を会場に、榛南花火大会が開催されました。この花火大会は、災害時の避難場所を多くの人に周知するとともに、にぎわいをみんなで作り上げていくことを目的に、主催の榛南青年会議所や地域の皆さんの協力で行われたもので、2,000発の花火が秋の夜空に打ち上げられました。また、会場には飲食店が並んだほか、キッズダンスなどの出し物、スタンプラリーなども行われ、親子連れなど多くの来場者でにぎわいました。

朝から夕方にかけて花の色が変化

■大鐘家の酔芙蓉が見ごろ

国指定重要文化財「大鐘家」の酔芙蓉が9月下旬ごろから見ごろを迎え、多くの来場者を楽しませました。この酔芙蓉は、朝から夕方にかけて色が変わっていく花で、朝は白色、昼ごろから薄いピンク色に変わり、夕方には濃いピンク色に変化していきます。この様子がお酒に酔ったような色の変り方であることから命名されました。その他にも、一般的なピンク色の「芙蓉」や「アメリカン芙蓉」などの花が庭園を彩りました。



大鐘家の長屋門前で咲き誇る酔芙蓉

秋の収穫をみんなで楽しむ

■稲刈り体験

坂部小学校の5年生17人が9月10日、学校プール横にある田んぼで稲刈りを体験しました。この稲刈りは、収穫の喜びを味わってもらおうと、榛原里やまの会のメンバーやPTA田んぼボランティアの協力で毎年行われています。児童らは、田んぼの一角の稲を手で刈り取った後、用意されたコンバインに乗せてもらい、残った稲を一気に刈り取りました。体験した児童は「初めてだったけど、上手く刈り取ることができた」と秋の収穫を喜びました。



コンバインに乗せてもらい稲刈りを体験する児童



あちこちに落ちている栗を夢中で拾う園児ら

おおきな栗がいっぱいとれた

■栗拾い体験

市内で唯一栗拾いを楽しむことができる相良油田観光くり園（菅山区）が、今年も9月14日から10月中旬まで開園しました。地元の菅山保育園の5歳児は開園に先立ち、9月11日に栗拾いを体験。園児らは、辺り一面に散らばる栗を見つけると大きな歓声を上げ、競い合うように栗を袋に入れていきました。栗拾いを終えた園児は「おっきい栗がいっぱいあってすごい」「栗を入れすぎて袋が重い」と満面の笑顔を浮かべていました。

広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

情報交流課 ☎0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

ズームイン！
カシャ！！



練り歌に合わせて船を担ぐ船若

海上安全や商売繁盛を祈願

■大江八幡宮の御船神事

国指定重要無形民俗文化財「大江八幡宮の御船神事」が9月15日、大江地区で営われました。この神事は、江戸時代の相良湊の廻船問屋が海上安全や商売繁盛を祈願したのが起源とされ、菱垣廻船と樽回船の模型船である長さ2メートルほどの「御船」を操り、神輿の先供をする行事です。天候にも恵まれたこの日、そろいの浴衣姿の「船若」と呼ばれる青年が、柱起こし、帆揚げの後、古風で優雅な練り歌と威勢のよい掛け声とともに荒々しく担ぐと、沿道の観客からは大きな歓声と拍手が巻き起こりました。

家内安全や世界平和を願って

■田沼意次侯生誕300年顕彰 さがら灯ろう流し

さがら灯ろう流しが9月7日、萩間川河口の湊橋付近で行われました。この催しは、地域の有志「さがら灯ろう流しの会」が、先祖の霊を供養するとともに、子どもたちに相良の景色を残し、地域を元気にしたいとの思いから平成23年に復活させたもので、今年で9回目の開催となります。「家内安全」や「世界平和」など、思い思いの願いが書かれた灯ろうが萩間川に流されると、幻想的な光が川面に浮かびました。



「家内安全」「健康」「恒久平和」などの願いが書かれた灯ろう



産地賞の受賞を喜ぶ市職員

茶業関係者の努力が結実

■全国茶品評会で牧之原市が4年ぶりに「産地賞」を受賞

愛知県西尾市で開かれた第73回全国茶品評会の深蒸し煎茶の部において、静岡県や鹿児島県、埼玉県など5県から出品された134品の中で、審査成績上位3品の合計審査点数が最も高い「産地賞」を牧之原市が4年ぶりに受賞しました。杉本市長は「生産者とJAの皆さんが高品質のお茶づくりに取り組んできたたまもの。厳しい茶業界ではあるが、産地賞をツールとして、静岡牧之原茶ブランドを全国に発信し、販売の促進を図っていきたい」と話しました。